

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年8月2日(土) 準決勝

Mコート 第2試合 深谷総合体育館(深谷ビッグタートル)

チームA				チームB
洛南	63	12 - 26 17 - 13 13 - 32 21 - 13	84	福岡第一
京都				福岡

洛南

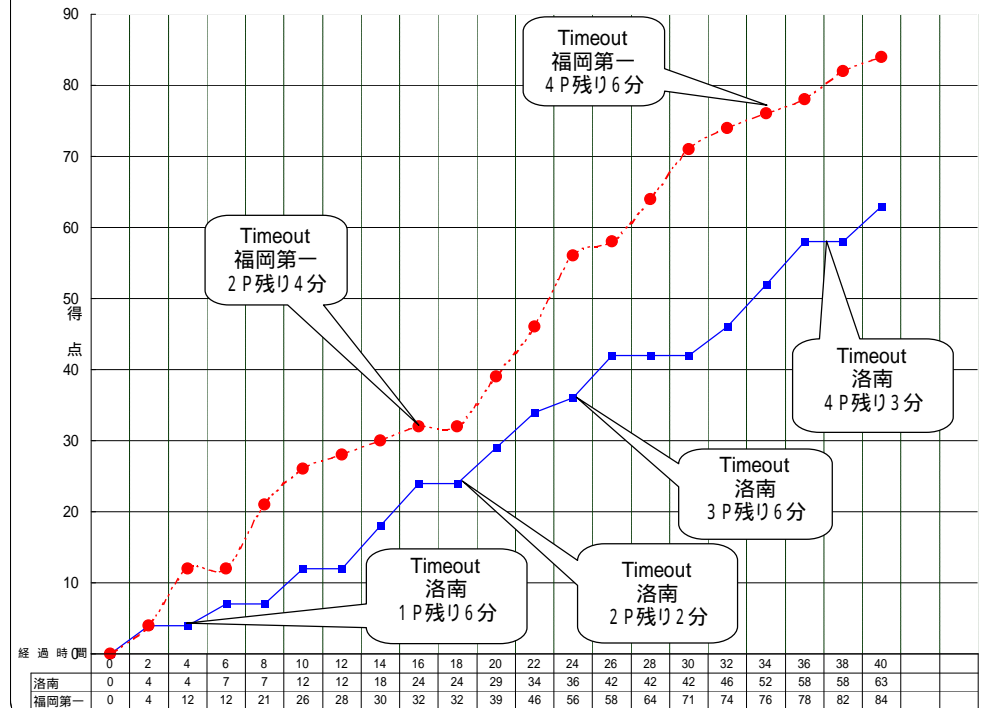
番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	佐藤 将斗	X	8	0	0	4	5	0	0	0	0	4	1	0	0	0	32
5	比江 島 慎	X	20	0	1	10	16	0	0	1	2	6	1	1	2	1	40
6	谷口 大智	X	12	0	2	5	15	2	2	2	1	2	6	2	3	0	37
7	藤原 龍介		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
8	相井 昂大		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
9	加藤 寛樹	/	2	0	0	1	7	0	2	1	1	2	1	2	1	0	26
10	蛭 名 涼	X	6	2	2	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	15
11	河上 宗平		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
12	小林 遥太	/	0	0	1	0	2	0	0	3	0	0	1	0	2	0	13
13	鈴山 高範	X	8	2	6	1	4	0	0	0	1	1	4	1	0	0	17
14	塩谷 亨	/	7	0	1	2	3	3	4	1	0	1	0	3	0	0	20
15	木村 晃大		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	吉田 裕司										0	4	6				
出場: ×は先発、/は出場			63	4	13	23	53	5	8	9	9	23	15	9	9	1	200
確率				30.8%		43.4%		62.5%					計				32

福岡第一

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	田中 宏和	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5	仲本 翔	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6	狩野 祐介	X	24	4	9	5	10	2	2	1	0	2	2	0	1	0	39
7	石川 裕一	/	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5
8	玉井 勇気	X	3	1	2	0	2	0	0	0	0	2	2	2	2	0	33
9	和田 直樹	X	9	1	3	3	3	0	0	1	0	2	0	0	2	0	30
10	セック エルハジ イブヌマ	X	35	0	0	16	21	3	4	2	5	11	4	2	2	5	39
11	早川 ジミー	X	10	0	0	5	10	0	0	3	2	6	1	2	2	1	37
12	岩下 真澄	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
13	園 幸 樹	/	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
14	山崎 翔	/	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	11
15	橋本 泰志	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
コーチ	井手口 孝										0	0	9	1			
出場: ×は先発、/は出場			84	7	16	29	50	5	6	7	7	33	14	7	9	7	200
確率				43.8%		58.0%		83.3%					計				40

2分毎による得点の推移

—●— 洛南 —●— 福岡第一



戦評

ウィンターカップ2連覇中で優勝を狙う洛南と、昨日インターハイ2連覇を目指し粘る能代工業を第4Pで振り切り勝ち上がった福岡第一の一戦。

第1P両チーム共マンツーマンでスタート、序盤アウトサイドシュートの確率の悪い洛南に対して福岡第一は#10イブラヒマが連続してローポストで得点。リバウンドから速攻もでて12-26と福岡第一がリード。

第2P福岡第一は#10イブラヒマがローポストで連続得点するが、洛南は#4佐藤のシュート、#5比江島の1対1、#6谷口のローポストと徐々に自分たちのプレイが始めて点差を詰め、29-39と福岡第一が10点リードで前半終了。

第3P福岡第一は#10イブラヒマのローポスト中心に#6狩野、#7石川の3Pシュートなどで連続得点し点差が開く。洛南は3-2ゾーンにディフェンスを変えるが、インサイドを抑えることができず、さらに速攻が連続して出て、42-71と点差がさらに開く。

第4P洛南は1-2-2の3クォーターのプレスにディフェンスを広げ、#4佐藤、#5比江島が積極的に1対1を仕掛け点を取るが、福岡第一も#10イブラヒマのリバウンドシュート、#11早川の1対1などで点差は縮まらない。最後まで福岡第一が安定したプレイを続け63-84で快勝。

主審	石黒 勉	副審	片寄 達	戦評	高橋 努 (埼玉県高体連)
----	------	----	------	----	---------------

3P: スリーポイントシュート、2P: 2ポイントシュート、FT: フリースロー、OF: オフェンス、DF: ディフェンス、TO: ターンオーバー、ST: スティール、AS: アシスト、BS: ブロックショット